

レッスン構成

以上の理念と編集方針に基づき、本書では以下のような構成を採用しました。

Q 扉の“科学の問い”

日本語は随分で
非論理的な言語なのか？

各レッスンのテーマについて説明しているのがこの扉のページです。まず科学の問いが示され、その問いについて導入部となる短文が示されています。この部分を使って各レッスンの導入を行い、学習者が持つ既有知識を活性化させます。

実験・調査・研究紹介

言語が認知バイアスに与える影響

各レッスンの冒頭では、様々な分野や領域で行われた実験や調査、および研究が紹介されています。「生」の科学的なデータや調査方法を意識しながら、レッスンのテーマについてアプローチします。多様な学術研究の視点に立ち、日本語を学ぶだけでなく、「日本語で学ぶ」という考え方に移行するように促します。

アクティビティ (LABCAST)

科学の問いで考える
曖昧な言葉

アイ「あれ、なに、そのノート、かわりく「え？いや、これは、その……」

登場人物の博士が、ゼミに所属するヒューマノイドのアイと、学生のリクとに向け、実験の解説をします。二人の学生からの質問を受けながら考察や分析を進めていく、「LABCAST (ラボキャスト・Laboratory Broadcast ※ゼミの生中継)」です。天才的で姉御肌の博士、日本語を学ぶヒューマノイドと草食系男子の三名の掛け合いをもとに、科学の問いに関する探究を行うための視点や世界的に有名な研究が提示されます。続く本文への橋渡しのアクティビティとして活用しましょう。

本文 (論説文)

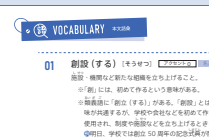
「第二言語」は人の思考を

日本語に向けられた批判

読解教材としての本文にあたる部分です。本文では上の「アクティビティ」で示された実験や研究のデータをもとに独自の議論が展開されます。理解が早いクラスであれば、この本文だけを読んで授業を進めても十分に活動ができるように書かれています(その場合、「アクティビティ」は自宅での予習に利用することができます)。文体については、バリエーションを持たせるために「だ・である体」だけでなく、講義をイメージして「です・ます体」が使われているレッスンも設け、奇数番号と偶数番号で書き分けています。また、データに基づいて抽出された学術語彙に加え、教師選定語彙、学習者選定語彙を本文中に明示し、語彙の意味と用例を詳しく解説しました。本文に登場する社会文化的な情報には、187もの注釈がつけられています。そのため、辞書や参考書を十分に入手できない場合でも、本書のみで日本語学習を進めることができるようになっています。

語

本文語彙



430の学術語彙に加え、112の教師選定語彙、84の学習者選定語彙、合計626の新出語彙について、学習者が理解しやすいオリジナルの意味と解説を収録しています。本文中の使い方のみならず、頻度の高い用例や類義語、対義語についても詳しく説明しています。626語の新出語彙は、『日本語学術共通語彙データベース』より頻度の高い430語を抽出した上で、本書の著者であるネイティブ・ノンネイティブ教師が経験に照らして「説明が必要である」と判断したものや、漢字圏・非漢字圏出身の学習者(日本語能力試験N1に合格している者)から「説明があったほうがよい」と指摘があったものを中心に、語彙選定調査を行って選定したものです。各語の解説時には、その語がどの視点で重要と判断されたかも以下のマークで示しています。学ぶ際に活用してください。

学術共通語彙

『日本語学術共通語彙リスト Ver. 1.01』に基づき、アカデミック・ジャパニーズの能力育成に極めて重要な430の語彙を選定したものです。

教師選定語彙

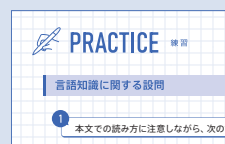
日本語能力試験(JLPT)のN1合格に必要な語彙、および、そのための学習に必要な112の語彙を教育実績のある日本語教師が教育経験に基づき選定したものです。

学習者選定語彙

既に日本語能力試験(JLPT)N1に合格している漢字圏学習者・非漢字圏学習者に調査を行い、学習経験に基づき解説が必要だと判断されたものです。

筆

練習



本文を通して学んだ言葉や表現の定着を図る「言語知識」、本文の内容理解を促進する「読解トレーニング」、テーマについてさらに考察を深めるための「発展活動」の順で練習問題が設定されています。これらの問題は、教室で本文読解と解説が行われた後に使用することもできますが、自宅での事前課題として反転授業用に使用することも可能です。また、独学用に使用することもできます。さらに、「発展活動」として、本文の論点について学習者自身で調べ、他者と共に考え対話するためのアクティビティが設けられており、教室内でのアクティブラーニングに用いることも可能です。加えて、ワークシート※をダウンロードし使用することで、クラス内で活動型の授業も展開できるようになっています。

※反転授業(アクティブラーニング)に関心のある方はこの後の「付録ワークシートを用いた本書の活用手法—アクティブラーニング型・活動型授業実践での使用方法—」をご覧ください。

文法コラム



上級レベルに求められる文法知識について、日本語研究の第一人者による書き下ろしコラムが掲載されています。取り上げられたトピックはいずれも、高度なコミュニケーション能力を育成するために、そして、アカデミックな日本語力を獲得するために、有用な言語知識と発想をもたしらしてくれます。授業の中で取り上げ解説することで、文法学習への意識づけを行うことができ、活動の流れにアクセントを加えることができます。また、読み物として自習課題や独学用に用いることも可能です。